

平成29年度

荒尾市水道事業会計
決算の状況

荒尾市企業局

1. 業務の状況

項目	単位	平成29年度	平成28年度	増減	伸率(%)	備考
行政区域内人口	人	53,098	53,675	△ 577	△ 1.1	
年度末給水人口	人	50,801	51,335	△ 534	△ 1.0	
普及率	%	95.7	95.6	0.1		
年間総配水量	m ³	5,742,488	5,758,925	△ 16,437	△ 0.3	
年間有収水量	m ³	5,051,674	5,101,638	△ 49,964	△ 1.0	
有収水量率	%	88.0	88.6	△ 0.6		
1日平均配水量	m ³	15,733	15,778	△ 45	△ 0.3	
1日最大配水量	m ³	17,215	17,269	△ 54	△ 0.3	

有収水量の推移

年度	水量(m ³)	増減率(%)
平成 19	5,231,210	1.6
20	5,133,180	△ 1.9
21	5,135,576	0.0
22	5,074,266	△ 1.2
23	5,018,308	△ 1.1
24	4,931,515	△ 1.7
25	4,894,701	△ 0.7
26	5,078,848	3.8
27	5,105,510	0.5
28	5,101,638	△ 0.1
29	5,051,674	△ 1.0

平成26年度から開始した水道一元化事業により、有収水量は増加となった。しかしながら、近年の人口減少の流れと節水型機器の普及等により減少傾向である。

2. 経営の状況

(収益的収入)

(単位:千円)

	平成29年度		平成28年度		対前年度比	
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)
1. 営業収益	746,245	72.3	755,391	72.8	△ 9,146	△ 1.2
①給水収益	744,204	72.1	753,097	72.6	△ 8,893	△ 1.2
②その他の営業収益	2,041	0.2	2,294	0.2	△ 253	△ 11.0
2. 営業外収益	285,746	27.7	282,395	27.2	3,351	1.2
①受取利息	56	0.0	65	0.0	△ 9	△ 13.8
②他会計補助金	51,113	5.0	53,035	5.1	△ 1,922	△ 3.6
③長期前受金戻入	203,565	19.7	199,703	19.2	3,862	1.9
④雑収益	31,012	3.0	27,492	2.6	3,520	12.8
⑤引当金戻入益	0	0.0	2,100	0.2	△ 2,100	皆減
3. 特別利益	21	0.0	0	0.0	21	皆増
①過年度損益修正益	21	0.0	0	0.0	21	皆増
計	1,032,012	100.0	1,037,786	100.0	△ 5,774	△ 0.6

(収益的支出)

(単位:千円)

	平成29年度		平成28年度		対前年度比		予算の 執行率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1. 営業費用	841,456	91.6	841,215	91.3	241	0.0	93.8
①職員給与費	43,977	4.8	42,174	4.6	1,803	4.3	88.3
給料	23,957	2.6	23,063	2.5	894	3.9	88.4
手当等	12,823	1.4	12,508	1.4	315	2.5	80.3
法定福利費	7,197	0.8	6,603	0.7	594	9.0	91.7
②経費	419,972	45.6	430,808	46.7	△ 10,836	△ 2.5	89.9
修繕費	25,607	2.8	22,196	2.4	3,411	15.4	80.6
委託料(包括:修繕費)	45,780	5.0	54,167	5.9	△ 8,387	△ 15.5	92.8
委託料(包括:動力費)	48,940	5.3	43,469	4.7	5,471	12.6	
委託料(包括:その他)	171,232	18.6	170,848	18.5	384	0.2	
委託料(包括以外)	92,179	10.0	91,146	9.9	1,033	1.1	
受水費	410	0.0	11,820	1.3	△ 11,410	△ 96.5	95.0
その他	35,824	3.9	37,162	4.0	△ 1,338	△ 3.6	67.8
③減価償却費	370,126	40.4	363,969	39.5	6,157	1.7	99.4
④資産減耗費	7,381	0.8	4,264	0.5	3,117	73.1	135.4
2. 営業外費用	76,916	8.4	80,380	8.7	△ 3,464	△ 4.3	99.0
①支払利息	76,841	8.4	80,315	8.7	△ 3,474	△ 4.3	99.0
②雑支出	75	0.0	65	0.0	10	15.4	
計	918,372	100.0	921,595	100.0	△ 3,223	△ 0.3	93.1

(損益収支)

(単位:千円)

(単位:千円)

	29年度	28年度	増減	利益剰余金処分額(案)	
当年度純利益	113,640	116,191	△ 2,551	当年度未処分利益剰余金	308,892
前年度繰越利益剰余金	77,115	110,924	△ 33,809	資本金の組入れ	△ 118,137
その他未処分利益剰余金変動額	118,137	78,659	39,478	減債積立金の積立	△ 50,000
当年度未処分利益剰余金	308,892	305,774	3,118	建設改良積立金の積立	△ 100,000
				翌年度繰越利益剰余金	40,755

収益的収入支出の説明

(収入)

(単位:千円)

科目	金額	説明			
給水収益	744,204	一般用	743,946	浴場用	258
その他の営業収益	2,041	消火栓維持管理負担金	434	手数料	159
		督促手数料	1,448		
受取利息	56	預金利息	56		
他会計補助金	51,113	簡水利子繰入金	347	閉山炭鉱利子繰入金	50,290
		児童手当繰入金	476		
長期前受金戻入	203,565	国庫補助金戻入	71,176	他会計補助金戻入	101,610
		工事負担金戻入	13,171	他会計負担金戻入	6,390
		受贈財産評価額戻入	11,218		
雑収益	31,012	下水道料金事務委託料	29,824	行政財産使用料	53
				その他	1,135

(支出)

(単位:千円)

科目	金額	説明			
職員給与費	43,977	給料・報酬	23,957	管理職手当	516
		扶養手当	780	期末勤勉手当	4,306
		通勤手当	191	宿日直手当	4
		住居手当	873	時間外勤務手当	497
		引当金繰入額	3,796	児童手当	560
		法定福利費	7,197	退職給付費	1,300
修繕費	25,607	配水一般修理	2,136	庁舎・車両修理	337
		水源施設管理負担金	23,134		
委託料	358,131	維持管理業務委託	86,839	包括委託	265,952
		水質検査委託	2,833	その他	2,507
受水費	410	受水	410		
その他	35,824	賃借料	3,754	啓発費	879
		通信運搬費	2,929	材料費	228
		手数料	2,163	負担金	630
		ダム管理負担金	21,440	その他	3,801
減価償却費	370,126	建物減価償却費	10,274	構築物減価償却費	235,085
		機械及び装置減価償却費	79,755	工具及び備品減価償却費	1,415
		無形固定資産減価償却費	43,597		
資産消耗費	7,381	固定資産除却費	7,170	棚卸資産減耗費	211
支払利息	76,841	財政省	47,378	民間等資金	621
		地方公共団体金融機構	28,842		

収益的収支については、収益10億3201万2千円に対し、費用9億1837万2千円で、収支差引1億1364万の黒字決算となった。

収益では給水収益の減少により、営業収益が1.2%の減少となったが、費用は概ね同等の結果となった。

3. 建設改良事業等の収支状況(税込)

(資本的収入)

(単位:千円)

	平成29年度		平成28年度		対前年度比	
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)
1. 企業債	185,000	45.7	163,600	48.4	21,400	13.1
2. 工事負担金	9,005	2.2	12,376	3.6	△ 3,371	△ 27.2
3. 他会計負担金	3,847	1.0	3,311	1.0	536	16.2
4. 補助金	206,893	51.1	159,039	47.0	47,854	30.1
計	404,745	100.0	338,326	100.0	66,419	19.6

(資本的支出)

(単位:千円)

	平成29年度		平成28年度		対前年度比		予算の 執行率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1 建設改良費	487,457	68.0	380,910	63.4	106,547	28.0	93.2
①配水設備拡張費	304,947	42.6	142,242	23.6	162,705	114.4	94.3
委託料(包括:工事費)	252,293	35.2	97,949	16.2	154,344	157.6	94.6
委託料(包括:その他)	50,630	7.1	42,000	7.0	8,630	20.5	
貸借料	2,024	0.3	2,293	0.4	△ 269	△ 11.7	96.5
②配水設備改良費	170,838	23.8	230,438	38.4	△ 59,600	△ 25.9	96.2
委託料(包括:工事費)	125,197	17.5	190,926	31.8	△ 65,729	△ 34.4	96.0
委託料(包括:その他)	19,008	2.6	19,008	3.2	0	0.0	
施設整備費	26,633	3.7	20,504	3.4	6,129	29.9	97.4
③営業設備費	11,672	1.6	8,230	1.4	3,442	41.8	52.6
委託料(包括:工事費)	9,898	1.4	8,230	1.4	1,668	20.3	59.4
備品購入費	1,774	0.2	0	0.0	1,774	皆増	32.1
2. 企業債償還金	228,986	32.0	219,742	36.6	9,244	4.2	99.3
計	716,443	100.0	600,652	100.0	115,791	19.3	94.7

(資本的収支)

(単位:千円)

	29年度	28年度	増減
資本的収支不足額	311,698	262,326	49,372
補填財源	過年度分	0	0
	当年度分	311,698	262,326

資本的収入支出の説明

(収入)

(単位:千円)

科目	金額	説明		
企業債	185,000	財務省	151,000	地方公共団体金融機構 34,000
工事負担金	9,005	工事負担金	3,028	下水道工事に伴う負担金 5,977
他会計負担金	3,847	消火栓新設負担金	3,847	
補助金	206,893	国庫補助金	75,550	他会計補助金 131,343

(支出)

(単位:千円)

科目	金額	説明		
企業債償還金	228,986	財務省	120,694	民間等資金 21,663
		地方公共団体金融機構	86,629	

4. 財政の状態

(資産の部)

(単位:千円)

		平成29年度		平成28年度		対前年度比	
		決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	比率(%)
資産合計		11,140,567	100.0	11,206,265	100.0	△ 65,698	△ 0.6
固定資産	有形固定資産	8,466,415	76.0	8,342,173	74.4	124,242	1.5
	無形固定資産	1,800,964	16.2	1,844,562	16.5	△ 43,598	△ 2.4
	計	10,267,379	92.2	10,186,735	90.9	80,644	0.8
流動資産	現金預金	815,629	7.3	954,571	8.5	△ 138,942	△ 14.6
	未収金	53,272	0.5	58,133	0.5	△ 4,861	△ 8.4
	貯蔵品	4,287	0.0	4,726	0.1	△ 439	△ 9.3
	短期貸付金	0	0.0	2,100	0.0	△ 2,100	皆減
	計	873,188	7.8	1,019,530	9.1	△ 146,342	△ 14.4

(負債資本の部)

(単位:千円)

		平成29年度		平成28年度		対前年度比	
		決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	比率(%)
負債資本合計		11,140,567	100.0	11,206,265	100.0	△ 65,698	△ 0.6
負債合計		7,361,482	66.1	7,540,819	67.4	△ 179,337	△ 2.4
固定負債	企業債	3,866,357	34.7	3,920,458	35.0	△ 54,101	△ 1.4
	退職給付引当金	28,802	0.3	30,414	0.3	△ 1,612	△ 5.3
	修繕引当金	25,146	0.2	25,146	0.2	0	0.0
	計	3,920,305	35.2	3,976,018	35.5	△ 55,713	△ 1.4
流動負債	企業債	239,101	2.2	228,986	2.1	10,115	4.4
	未払金	194,824	1.7	336,287	3.0	△ 141,463	△ 42.1
	引当金	6,708	0.1	5,452	0.1	1,256	23.0
	その他流動負債	1,048	0.0	1,053	0.0	△ 5	△ 0.5
	計	441,681	4.0	571,778	5.2	△ 130,097	△ 22.8
繰延収益	長期前受金	5,251,614	47.1	5,053,760	45.1	197,854	3.9
	長期前受金累計額	△ 2,252,118	△ 20.2	△ 2,060,737	△ 18.4	△ 191,381	9.3
	計	2,999,496	26.9	2,993,023	26.7	6,473	0.2
資本合計		3,779,085	33.9	3,665,446	32.6	113,639	3.1
資本金	資本金	2,973,478	26.7	2,894,819	25.8	78,659	2.7
	計	2,973,478	26.7	2,894,819	25.8	78,659	2.7
剰余金	資本剰余金	70,789	0.6	70,790	0.6	△ 1	0.0
	利益剰余金	734,818	6.6	699,837	6.2	34,981	5.0
	計	805,607	7.2	770,627	6.8	34,980	4.5

キャッシュ・フロー

(単位:円)

区 分	平成29年度	平成28年度	対前年度増減額
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	113,639,583	116,191,206	△ 2,551,623
減価償却費	370,125,667	363,969,446	6,156,221
固定資産除却損	7,170,085	4,136,099	3,033,986
減損損失	0	0	0
貸倒引当金の増減額	△ 36,604	△ 112,322	75,718
引当金の増減額	△ 356,000	△ 3,580,649	3,224,649
長期前受金戻入額	△ 203,565,003	△ 199,702,658	△ 3,862,345
受取利息及び受取配当金	△ 55,813	△ 64,841	9,028
支払利息	76,840,932	80,314,763	△ 3,473,831
固定資産売却損益	0	0	0
過年度損益修正損益(△は増加)	△ 20,545	0	△ 20,545
未収金の増減額(△は増加)	△ 35,186,382	1,927,159	△ 37,113,541
受取手形の増減額(△は増加)	0	0	0
たな卸資産の増減額(△は増加)	438,475	899,382	△ 460,907
その他流動資産の増減額(△は増加)	0	0	0
特定収入仮払消費税の調整額	△ 16,053,063	△ 12,751,931	△ 3,301,132
未払金の増減額(△は減少)	△ 28,989,264	82,916,570	△ 111,905,834
前受金の増減額(△は減少)	0	0	0
その他流動負債の増減額(△は増加)	△ 5,210	0	△ 5,210
小計	283,946,858	434,142,224	△ 150,195,366
利息及び配当金の受取額	55,813	64,841	△ 9,028
利息の支払額	△ 76,840,932	△ 80,314,763	3,473,831
業務活動によるキャッシュ・フロー	207,161,739	353,892,302	△ 146,730,563
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 563,823,431	△ 173,478,338	△ 390,345,093
有形固定資産の売却による収入	0	0	0
無形固定資産の取得による支出	0	0	0
無形固定資産の売却による収入	0	0	0
有価証券の取得による支出	0	0	0
有価証券の売却による収入	0	0	0
貸付けによる支出	0	△ 2,100,000	2,100,000
貸付金の回収による収入	2,100,000	30,000,000	△ 27,900,000
国庫補助金等による収入	107,379,000	36,924,000	70,455,000
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	131,343,521	127,209,759	4,133,762
寄附金による収入	0	0	0
負担金による収入	20,883,160	5,882,380	15,000,780
出資による支出	0	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 302,117,750	24,437,801	△ 326,555,551
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入れによる収入	0	0	0
一時借入金の償還による支出	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	185,000,000	163,600,000	21,400,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 228,986,046	△ 219,742,244	△ 9,243,802
その他の企業債による収入	0	0	0
その他の企業債の償還による支出	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための他会計借入金による収入	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための他会計借入金の償還による支出	0	0	0
その他の他会計借入金による収入	0	0	0
その他の他会計借入金の償還による支出	0	0	0
他会計からの出資による収入	0	0	0
リース債務の返済による支出	0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 43,986,046	△ 56,142,244	12,156,198
資金の増加額(又は減少額)	△ 138,942,057	322,187,859	△ 461,129,916
資金期首残高	954,571,306	632,383,447	322,187,859
資金期末残高	815,629,249	954,571,306	△ 138,942,057

主な経営指標

区 分	単位	29年度	28年度	27年度	類似団体
1.事業の概要					
普及率	%	95.7	95.6	95.5	77.9
1人1日平均有収水量	ℓ	272	272	270	306
有形固定資産減価償却率	%	41.1	40.3	39.1	45.0
2.施設の効率性					
有収率	%	88.0	88.6	90.0	88.1
負荷率	%	91.4	91.4	67.5	85.7
施設利用率	%	67.8	68.0	69.2	56.7
最大稼働率	%	74.2	74.4	102.4	66.1
配水管使用効率	m ³ /m	13.1	13.1	13.1	21.3
固定資産使用効率	m ³ /万円	6.8	6.9	6.8	7.1
3.経営の効率性					
総収支比率	%	112.4	112.6	115.7	115.7
経常収支比率	%	112.4	112.6	115.7	115.0
繰入金比率(収益的収入)	%	5.0	5.2	5.5	1.3
給水収益に占める割合					
うち企業債利息	%	10.3	10.7	11.3	7.2
うち減価償却費	%	49.7	48.3	48.9	44.7
供給単価	円	147.32	147.62	145.92	136.03
給水原価	円	141.5	141.5	134.36	126.82
料金回収率	%	104.1	104.3	108.6	107.3
4.財務の状況					
流動比率	%	197.7	178.3	237.9	452.7
当座(酸性試験)比率	%	196.7	177.1	226.2	424.3
自己資本構成比率	%	60.9	59.4	60.2	73.3
固定資産対長期資本比率	%	96.0	95.8	96.1	88.8

水道事業の経営指標(平成29年度決算)

○本市の経営状況と類型区分(平成29年度末現在)

給水人口	主な水源	経常収支比率	累積欠損金比率	不良債務比率
50,801	地下水・河川水	112.4	—	—

・給水人口区分 5万人以上10万人未満

・類団平均は、28年度決算数値により総務省が算出した指標を用いた。

1 事業の概要

(1) 普及率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
95.7	95.6	77.9

《算式》 普及率＝給水人口÷行政区域内人口

《説明》 市内での水道の使用割合(普及)をみるもの。

《分析結果》 荒尾市の水道普及率は、類似団体平均を上回っており、ほとんどの市民が水道の供給を受けている状況である。

(2) 1人1日平均有収水量(ℓ/人/日)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
272	272	306

《算式》 平均有収水量＝1日平均有収水量÷給水人口

《説明》 給水人口1人1日当たりの水の使用量を表すもの。

《分析結果》 1人1日当たりの有収水量は272ℓである。前年度と変動はないが、前年同様類似団体平均は下回っている。

節水型社会への移行、節水意識の向上及び大口使用者の使用抑制が要因と考えられる。

(3) 有形固定資産減価償却率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
41.1	40.3	45.0

《算式》 有形固定資産減価償却率＝有形固定資産減価償却累計額÷償却対象資産の帳簿原価×100

《説明》 資産の減価償却済の割合を示すもので、減価償却の進み具合や資産の経過年数を知ることができ、施設更新、修繕等の必要性を把握し、施設管理の一層効果的な運用を図るための判断材料として活用できる。

《分析結果》 類似団体平均を下回っているが、近年比率は上昇傾向にある。今後は、設備投資計画の作成、計画に基づく施設更新が必要である。

2 施設の効率性

水道事業は施設型の事業であり、適切な投資が行われているか否かが経営を左右することになる。投資が適切であるか否かは、施設の効率性を分析することにより判断することができる。

(1) 有収率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
88.0	88.6	88.1

《算式》 有収率＝年間総有収水量÷年間総配水量×100

《説明》 配水量に対して料金収入の対象となった水量の割合を示すもの。

《分析結果》 類似団体平均とほぼ同等であるものの、前年度から0.6ポイント減少している。この要因の多くは漏水であると考えられ、今後老朽管の更新や適性な維持管理により、漏水防止対策を更に進めていく必要がある。

(2) 負荷率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
91.4	91.4	85.7

《算式》 負荷率＝1日平均配水量÷1日最大配水量×100

《説明》 施設が年間を通して有効に利用されているかをみる指標。この比率が高いほど施設の効率性がよい。即ち100%に近いほど、施設が平均的に稼働していることを示す。

《分析結果》 前年度と変動はなく、類似団体平均を上回っており、施設は概ね効率的に利用されている。今後は人口減少により水需要の減少が予想されるため、水道施設の統廃合等を視野に入れた効率的な整備の検討が必要である。

(3) 施設利用率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
67.8	68.0	56.7

《算式》 施設利用率＝1日平均配水量÷1日配水能力×100

配水能力(H29年度) 23,200

《説明》 施設の利用が有効かつ適切に行われているかをみる指標。この比率が高いことは、施設の規模が適正であり施設が効率よく稼働していることを示す。

《分析結果》 前年度からやや減少しているものの、類似団体平均を上回っており、施設は概ね効率的、かつ有効に稼働しているといえる。今後は人口減少により水需要の減少が予想されるため、水道施設の統廃合等を視野に入れた効率的な整備の検討が必要である。

(4) 最大稼働率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
74.2	74.4	66.1

《算式》 最大稼働率＝1日最大配水量÷1日配水能力×100

《説明》 施設の利用及び投資の適正化をみる指標。この比率が高いことは、一般に施設能力の設定が水需要に照らし適正になされていることを示す。

《分析結果》 前年度からやや減少しているものの、類似団体平均を上回っており、概ね施設能力の設定が適正であると考えられる。今後は水道施設の稼働率が下がることが予想されるため留意が必要である。

(5) 配水管使用効率(m³/m)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
13.1	13.1	21.3

《算式》 配水管使用効率＝年間総配水量÷導送配水管延長

導送配水管延長(H28年度) 439,430m

《説明》 導・送・配水管の布設延長に対する年間配水量の割合をみる指標で、給水区域の人口密度によって影響を受け、この数値が高いことは一般的に給水人口密度が高いと考えられる。

《分析結果》 前年度と同等の結果で、低い数値で推移しており、類似団体平均も下回っている。しかし、配水管使用効率は、人家等の密集度が高い大都市ほど高い傾向があり、集中よりも分散型住居地になる荒尾市の地域性を考慮すると、適正な数値だと考えられる。

(6) 固定資産使用効率(m³/万円)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
6.8	6.9	7.1

《算式》 固定資産使用効率＝年間総配水量÷有形固定資産

《説明》 有形固定資産に対する年間配水量の割合を見る指標で、一般的にこの数値が高いことは施設が効率的に使用されていることを示す。

《分析結果》 前年度から0.1ポイント下回り、類似団体平均よりも僅かながら下回っている。地理的条件によるものと考えられるが、今後、人口減少等により配水量の減少が予想され、施設の使用効率が低くなることも考えられるため、適正な施設規模を検討する必要がある。

3 経営の効率性

(1) 総収支比率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
112.4	112.6	115.7

《算式》 総収支比率＝総収益÷総費用×100

《説明》 損益収支の均衡度を収益対費用の関係で表した指標で、100%を超え、かつ高いほど経営成績は良好といえる

《分析結果》 収益の減少により、前年度から0.2ポイント下がっている。指標は100%を超えているが、給水収益だけでは費用を賄えない状況になっている。今後は人口減少により更に給水収益の低下が予想されるため、経費削減だけでなく、料金改定等の検討も必要である。

(2) 経常収支比率(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
112.4	112.6	115.0

《算式》 経常収支率 = (営業収益+営業外収益) ÷ (営業費用+営業外費用) × 100

《説明》 特別損益を除く経常的な収支を示した指標であり、100%を超えて、かつ高いほど経営成績は良好といえる。

《分析結果》 総収支比率と同様、収益の減少により前年度から0.2ポイント下がっている。指数は100%を超えているが、収益(給水収益)が低下しているため、経費削減だけでなく料金改定等の検討も必要である。

(3) 繰入金比率(収益的収入)(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
5.0	5.2	1.3

《算式》 繰入金比率 = 他会計繰入金合計(収益) ÷ 収益的収入 × 100

《説明》 一般会計からの繰入金依存度をみるもので、規模の小さい事業体ほど高い傾向を示す。

《分析結果》 類似団体平均を上回っているが、閉山炭鉱利子償還相当分及び基準内繰入によるもので、財源の有効活用が図られている。

(4) 給水収益に対する企業債利息の割合(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
10.3	10.7	7.2

《算式》 給水収益に対する企業債利息の割合 = 企業債利息 ÷ 給水収益 × 100

《説明》 企業債利息を給水収益でどの程度賄っているかを示した指標である。水道事業は、施設型産業であり、設備投資の財源として企業債の依存度が高くなるので、減価償却費と同様に資本費の高騰に留意は必要である。

《分析結果》 前年度より減少しているが、類似団体平均より高くなっている。今後も老朽化した施設、管路を計画的に更新していく必要があるため、企業債の借入に頼らざるを得ない状況である。企業債利息の返済にあたり、料金改定等の検討が必要である。

(5) 給水収益に対する減価償却費の割合(%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
49.7	48.3	44.7

《算式》 給水収益に対する減価償却費の割合 = 減価償却費 ÷ 給水収益 × 100

《説明》 減価償却費を給水収益でどの程度賄っているかを示した指標である。

《分析結果》 前年度から1.4ポイント上回り、類似団体平均も上回っている。但し、今後は老朽管更新工事などの投資が増え、給水収益の減少も予想されるため留意が必要である。

(6) 供給単価 (円/㎡)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
147.32	147.62	136.03

《算式》 供給単価＝給水収益÷年間総有収水量

《説明》 有収水量1㎡当たりの給水収益(売価)を示す。

《分析結果》 水1㎡当たりの売価が類似団体平均より高くなっているが、給水原価、料金回収率とあわせてみると、料金水準は高くない状況である。但し、今後は給水収益の減少により供給単価が下がることが予想されるため、給水原価、料金回収率とのバランスを維持するため、給水収益を上げる必要がある。

(7) 給水原価 (円/㎡)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
141.50	141.50	126.82

《算式》 給水原価＝[経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価)-長期前受金戻入]÷年間総有収水量

《説明》 有収水量1㎡当たりの給水に要する費用

《分析結果》 前年度と同等の結果だが、類似団体平均より高い。今後は、有収水量の減少が見込まれることから、適切な料金水準を維持するため経費の削減に努める必要がある。

(8) 料金回収率 (%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
104.1	104.3	107.3

《算式》 料金回収率＝供給単価÷給水原価×100

《説明》 供給単価と給水原価の関係を見るもので、この料金回収率が100%を割り込むことは、給水に要する費用を水道料金で賄うことが難しくなっていることを意味する。

《分析結果》 前年度よりやや下回り、類似団体平均も下回っている。指数は100%を超えているが、供給単価の減少に伴い、回収率の低下が予想されるため留意が必要である。

4 財務の状況

(1) 流動比率 (%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
197.7	178.3	452.7

《算式》 流動比率＝流動資産÷流動負債×100

《説明》 短期債務に対する支払能力をみるもので、100%以上が望ましい。

《分析結果》 流動資産(現金預金)は減少したが、流動負債(未払金)もほぼ同等額減少したため、前年度よりも19.4ポイント上回った。類似団体平均よりも下回っているが、当年度は100%を上回っており、短期債務に対する支払能力がある結果を表している。但し、今後は企業債の借入が増える見込みのため留意が必要である。

(2) 当座比率 (酸性試験比率ともいう) (%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
196.7	177.1	424.3

《算式》 当座比率 = $\{現金預金 + (未収金 - 貸倒引当金)\} \div 流動負債 \times 100$

《説明》 支払義務として流動負債に対する支払手段としての当座比率 (流動資産のうち、現金・預金、換金性の高い未収金等) の割合を示すもので、短期債務に対する支払能力をみる指標。この指標で支払能力をみる場合は、単に数字の大小のみならず、当座資産の大小か流動負債の大小かを確認することが大切である。

《分析結果》 未払金 (流動負債) の減少などにより前年度より19.6ポイント上回った。類似団体平均よりも下回っているが、100%は超えているため当面の支払能力には全く問題はない。但し、今後は企業債の借入が増える見込みのため留意が必要である。

(3) 自己資本構成比率 (%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
60.9	59.4	73.3

《算式》 自己資本構成比率 = $(資本金 + 剰余金 + 繰延収益) \div 負債資本合計 \times 100$

《説明》 総資本に占める自己資本の割合を示す指標である。水道事業は施設の建設費の大部分を企業債によって調達していることから、自己資本構成比率は低いものにならざるを得ないが、事業の安定化を図るためには自己資本の造成が必要である。また、自己資本は、負債とは異なり原則として返済する必要がない資本であり、その意味で資本コストはかからず、自己資本によって建設投資を行うほうが資本費を抑える結果となる。なお、自己資本のうち剰余金等の内部留保の構成率が高いほど資本構成の安全性が高いので、自己資本の構成の内容まで留意する必要がある。

《分析結果》 類団体平均を下回っているが、望ましいといわれる50%を上回っている。但し、今後は企業債の借入が増えることが予想されるため留意が必要である。

(4) 固定資産対長期資本比率 (%)

荒尾市		類団平均
29年度	28年度	28年度
96.0	95.8	88.8

《算式》 固定資産対長期資本比率 = $固定資産 \div (固定負債 + 繰延収益 + 資本金 + 剰余金) \times 100$

《説明》 固定資産がどの程度、自己資本などの長期資本によって調達されているかをみる指標で、常に100%以下で、かつ低いことが望ましい。100%を上回っている場合には、固定資産の一部が一時借入金等の流動負債によって調達されていることを示し、不良債務発生の原因となる。

《分析結果》 本市は96.0%と100%以下であり、事業の安全性は確保されているが、若干高い傾向にあり類似団体平均も上回っている。自己資本での固定資産調達が若干低いということが考えられるため、今後の推移に注意を払う必要がある。